

武江年表

六

伊5  
760  
6





伊5  
760  
卷6



武江年表卷之六

明和七年度寅 六月閏



三月十日より湯島天満宮開帳○十日より所蔵寺八幡宮より東北野社  
 司不務堂神志草像奉祀親世寺開帳○浅草祇念寺より三及明願寺柳  
 御堂聖徳太子三尊佛未開帳○四月朔日より麻布善福寺より越後  
 寺田井波園瑞泉寺親書上人宝物未詳也○同日より深川吉住寺  
 あり奥州今津大用密寺釈迦如来并帳○茅場町茶師如来開帳  
 ○深川津島寺あり身延山奥院祖師鬼子母神開帳○四月十二日より  
 深川大佛勧進所より二月堂親世寺并宝物開帳○永代寺より徳倉  
 寺并熾磨王本地地蔵并帳○五月より八月迄徳田大早  
 道玄稲小虫つれ  
 印太虫飛歩仍

武江年表卷之六



倭小虫をカチと云麦稗を貴一野菜物の價よりまゝ  
閏月神奈川の鯛三子喉余死海の苦境と云の如く死也 ○六月下旬星月を考め

○麻布永坂光照寺弥勒如来開帳 ○六月十九日八月中旬返回院にて巖  
峨清涼寺釈迦如来開帳 ○同日より一日八幡宮に旅して徳洲布院在才

天軍帳 ○青山若光寺にて徳倉松本寺親世寺軍帳 ○今年浪浪の釈迦  
開帳ありしより思ひおこして山岳明阿弥君釈迦文佛内徳考一巻編輯

所より写本ありしなり ○閏六月朔日より所花寺十王堂にて武州松山記  
寺毘沙門天軍帳 ○七月廿八日夜乾の空赤なり丹のごく又幡雲出る

○八月十日より回向院にて京都伏見東福寺塔院毘沙門天  
帳 ○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡 ○八月廿日回向院にて高野二十

遍名号弥勒如来開帳 ○八月より築地本願寺にて甲辰轉村至福寺於所  
坊聖徳太子開帳 ○十一月市谷長延寺にて雲洲釈迦嶽雲右持門大圖と

成り雷電為右半の一也一夜のお撲身なり ○十一月廿日官匠望月三英卒 藤門山  
百里の男あり ○以冬大多く死也 ○十月廿六日書家小笠原一甫卒 名長和料理在事の  
半迎大信寺小華以

明和八年辛卯

正月廿日麻布寺より芝邊迄焼亡 ○正月廿日儒師宮城龍門卒 名維翰 玄田  
○正月廿八日書家上田素鏡卒 号陸古堂 浅草永見寺小華以 ○二月 日不 村松町より出火

為必辺坊焼亡浅草河原前助真先稻荷の辺なり ○二月十日より上野  
清水堂千手親世寺開帳 ○二月廿日より王子稻荷明神開帳 ○三月初旬より

伊勢系宮流 所謂お寺ありありあり我肉を食を始しし身不潔也  
本下川業師如来開帳 ○二月五日より所花寺花徳院あり武助比企郡若光

九番 親世寺 徳源明王開帳 ○二月十一日より回向院にて明曆大火焼死  
死車にて万日回向修好 ○二月十五日より下谷五条天神并天満宮開帳 ○二月廿日



しろう不忠池弁才天開帳 ○二月廿九日方より以富士田根江死 古法と云を世の上まあり芝倉移心傳ふ

○四月朔日より淺草本法寺にて房明本条小松系鏡恩と祖師開帳

○同日より不忠弁才天内にて鏡倉極末と釈迦如来開帳 ○本所より梅

自性院にて信忍川東南照寺鉢池如来開帳 ○四月朔日より淺草寺内より

上總望地郡大久保村大日と大日如来熊野権現開帳 ○戸崎町 垂量

院にて興忍業折金徳と鉢池如来垂徳上人像開帳 ○淺草寺町源空寺

文殊并開帳 ○四月江戸豊隆寺 ○四月八日物産家後放梨妻年 七十五元孫太仲・悟法庵

と早良若連の虫多し。芝倉村より早良寺又義方 拙書と早良宮根温泉有る温泉の記行多あり ○四月廿三日曉寅刻吉原揚屋町

火火廓中焼亡 以時も九并助船着の社勝り今戸橋場辺 ○六月二日地震 ○五月十七日

先物飛ぶ ○五月より三股新地築三路 安永元年の件又記せり ○六月二日大地震

○五夜浪通用止 ○東埔塞丸の小さ成唐茄子と号してをわり出火

○藥研堀とりのり米沢町二丁目三丁目の地先小車一入堀多し。今年

六月より十月迄は埋立其時町並と双葉研堀埋立也と号し ○七月朔日

浅草境内にて鏡倉永谷貞昌院天満宮開帳 ○七月朔日より回向院にて

大和常麻誕生と鉢池如来開帳廿五菩薩来途舎修行あり ○八月大風人

家多く倒れ世祀りぬ切もて永代橋一高り大橋ありて止り又一艘佃島と

石川島の名一吹上人船を破て出火 ○九月神田明神祭礼延引安永八年より

出火 ○秋永代寺小桑山泉水とくろくを神山とくろくを以近辺度く出火

たり中河岸小橋並り秋の葉より出火して本所小梅迄焼け其處寺

本堂も焼より是を神山の形を写し女人を詣りある崇あり 以説理小

あまの山を造るに永代寺の廻中あり ○神田佐柄本町酒店山川十右衛門

近辺の町並のりのり初る不あり こころ ○神田佐柄本町酒店山川十右衛門

親世言像二十三軀を造りしめ淺草下谷の寺院二十三所安置して暇礼の



此年間記事

△儒家 宇佐美惠助水 杉崎才苑觀 井上文平金 井上深菴東 井上仲

岡井郡太史川 △詩文 藤孫八臺 細井甚三郎平 宮嶽三右衛門田 須知文平

葛城山人 千葉茂右衛門其 三浦左吉衛瓶 大内忠右史熊 △書家 三井孫右衛門

和親 澤田文二郎江 松下君嶽鳥 屋代子左衛門師 伊原善菴益 隈陵山人

小河保壽 細井九臯 △和歌 加茂吉洲 藤原守方 荷田西風 蒼生女

稻生魚彦 △物産 田村元権 平賀旭溪 後藤梨夷 △画家 狩野榮川院

鈴木鄰松 吉田紫香 佐藤嵩之 三浦花信 諸葛監文 諸葛文靜 諸葛文和

△俳諧 葛太存義 買明治山 田社宝馬 露十 △浮世繪師 橋川春章

一筆 秋文 洞 磯田湖 藤 柳文朝 小松 藤百 龜木 行

○三井親和が篆書が好むより親和深と篆字のむきれり形を浮物とを

る事あり又婦女の衣類表へ毒化ふくまふ種程を付る事あり ○細月の

振るる事あり 武家より細月刀を用いし由 ○土平といふ館賣を命る谷中益藤橋を

境内の茶屋幾處のむせん淡草奥山嶺杏木の下揚枝店柳屋のおおむ

美女の穿えあり 喜佐の舞馬よ ○曲亭云明和二年の以庵山の彩色摺ふあり以

て板木師金六といふりの板摺某ふくまひ板木(見島)を付る事を工史始り

四六遍の彩色摺を製し出せり程あり和ふくまひ摺出の事とありぬと云

蜀山翁云此院非之を高を付る彩色摺の延享元年 ○明和二年の以人形を吉田

江を屋吉右衛門工史を始とすといふり 文三郎同文吾松りり一以彼ら風をいふり以て羽折の史再史を好むるが

福あり程く成りり ○琴曲生田檢校が作る ○富士田根の萩の露友

木が長唄新内節降臨陽りり ○二挺鼓を作る ○朝鮮の弘慶子といふ某







利小風ふり或東風又成常盤橋外の大火傳り町邊馬喰町二丁目連  
 濱町邊堺町葺屋町為座の芝居探芝居四座小畑町大坂町田所町羅波町  
 住吉町邊伊勢町駿河町室町迄日本橋中橋京橋ふいり末刻双方の火  
 燒り時大雨降風強り火多き六里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋  
 の於縣々焼死怪家人其數を知らず 上野仁豆つは時再交の燒亡之感あるべき様  
 もいひし燒の麻布一本松申けは裁割り  
 ○吉原町飯宅今戸楊場山の宿ある御川八幡寺佃丁とある芳町の街籠郎由仲丁の飯宅に於り  
 ○大火後仍人坂大田吉再建すその時ある人二百羅漢の石像を造立せし雲中菴蓼太  
 横山町に住りし火多き逃れし御川右名堀要津中の菴より「緋襦袢を忘るる  
 青兒柳のふ」といふをありしを尋ねし人よむをひて百韻をみて夜を明せしとぞ  
 ○三月廿日より不忍弁乙内にて京高如堂法寺稻荷町神岡帳  
 ○四月十日より牛の所前王子権現岡帳○四月十九日善方天火西より東北へ  
 飛ぶ○四月八日より小日向大日坂妙皇院大日如來岡帳○魚籃觀世  
 音岡帳○四月より五月迄諸處疲癯なり○四月廿谷内新新宿給舎

再興所免あり甲坊道中人馬燒立の事ありて警昌せり○大川中洲抄地

條立成統以町屋の安永四年小至々々全く成まり 中洲ハ新天橋より南の方沼井  
 家白須家菅沼家山屋松通

川岸九丁余坪敷九千六百七十七坪余葦屋九十二軒あり其内四季庵と云いし小東の隅の  
 料理屋を殊々大度之とそ湯屋ハ三軒あり其餘の家數知るべし安永四年より天明八年  
 迄十三年の間に中洲の之屋ひあま橋前後の地を焼くありし寛政己未元のごとく  
 朱樂菱江の條の大抵焼焼といふ事紙に中洲の事と云いし記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒 六十五名及賢林甚茂後世譽教中林名院は華次  
 初代英一紫晩年の門人ありて始一水と云り嵩谷は門之

○八月朔日二日大風而家屋を吹潰せし為妻於燒の小屋吹倒りし事多し  
 後氏の困苦甚し ○八月廿日儒師村士淡舟卒 名宗雄林村在東の  
 初代大田吉雨葉と ○八月金彫

工大森英昌卒 六十八 ○八月十七日大風而再度小屋を覆す事不深川出水床  
 上連賣の大船永代橋を損じ ○八月廿七日上依左京少進光芳卒 七十五

○九月武末張通用始り ○十一月朔日敷九町以上野所本坊失火

○此冬初唐といふ人日暮里舟繋松の碑を建し海入江貞文を撰じ



○再按増補江戸砂子梓乃 沾涼ガ男恒足軒門人 冬涉按訂以

安永二年癸巳 二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒 称彰を傍又久吉史玄岱の二男也 上野護国院に葬以 ○三月音より平島

長命寺弁天岡帳 ○二月より回向院境内一言親者岡帳 ○同音帰慶申堂

青面金剛岡帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲巻弁天岡帳

○同月より先稻荷神岡帳 ○四月午の日祭地小田原町浪除稻荷祭

町々出練指亦必以生塚体む ○三月末より夜病仍且人多く死亡 江戸中 夜死といふ大方中人以下あり

三月より五月まで九十九万人 所救とて朝鮮人參せぬもの ○四月よりお忍江の橋

上の宮弁天岡帳江戸より糸清多し ○五月醫學館再建諸醫師より年々

寄附銀あり ○五月十九日儒師坪井青城卒 名敏求 浅草正覺寺に葬以 ○葛西本郷

寺日限親世者岡帳 志つりて半途に 傳る ○七月朔日より湯島社地にて攝州

四天王寺聖徳太子岡帳 六月廿六日のた念の時 連の徳多く如 ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あふぶる中にて米物の價甚貴りしこれよりして正月門飾の松竹高ふるあり

名ふし所ふあ玉川も氷固て通船絶一日も有し由後見まふりし

○十二月朔日神田神社仮殿にて系礼の式執り 當年系礼の年也者一が喜也災 罹り本社内遠雷いまだ成らば

産子の町々ねり物もるふありをる夜今日仮殿にて生式のくわり 安永の始の以綿の史也 作りたる所の畑も盛ん

生塚安永六年連仮殿にて執り以八月亥年九月奉参りあり 墓所一覽小画人宋紫石今も終り系本郡中植奉りて葬 一級ありてそ更不賣れり也 自由記せり種る小最島扁額縮本は安永七年戊戌五月

宋紫石六十三才にて孔雀を画する額を載りよりして植奉りてありるし不石碑ありて忌日 愼らむべし又同中宗恩も其家の墓碑ありとも不詳あり

同 三年甲午

正月廿日狩野洞庭島信卒 ○二月八日より川口善光寺延焼如未丑帳

○三月音下栢町より出火大風あて板所焼すといふ ○三月十日中野娘

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺に葬以 画并俳諧を長く以興業齋と号以



○同日より魚藍親世音開帳 ○四月朔日より六月廿一日迄大師河原年間  
 寺弘法大師中微稻荷田向院にて開帳 ○四月四日より六月八日迄本所  
 表町本久寺祖師開帳 ○四月八日より五月十八日迄本下川茶師如來開帳  
 ○永代寺内丈六親世音腰籠佛開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺  
 親世音開帳 ○西門外河對面所にて信物植料郡白香山康樂寺國光大師  
 所新觀音上人本像開帳 ○二本板廣岳院にて仙臺住生寺寶牛像  
 度田光大師開帳 ○六所鉢陀末本親世音開帳 西ヶ平 昌林 ○同三番西ヶ平  
 無量も親世音開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院  
 兩童子松壽院おろく弁才天獲籠像開帳 ○淺草池の妙寺も弁  
 才天開帳 ○五月十六日より龜戸天満宮開帳 ○六月六日大雷廿七ヶ所小  
 落る ○六月廿二日大風雨家屋を損し樹木を倒し

○小石川傳通院山内福聚院大黒天夏の比より江戸中一構中を結んで  
 甲子の氣清今年より始る ○七月朔日より護國寺本尊如來佛親世音  
 開帳 ○同日より小石川大塚大慈寺親世音開帳 ○七月十五日古筆了延卒  
 一才 ○八月十日市谷八幡宮祭礼神樂を演じ一才練物未終る ○八月十日  
 祭礼祖齋賀新内死 一才 ○九月朔日より市谷八幡宮内茶の末稻荷開  
 帳 ○九月醫學教講堂成就是 ○九月廿日土山聖天宮祭礼神樂を演  
 じ産子の町より出し練物を出し後休む ○九月廿日小石川白山権現  
 祭礼神樂を演じ産子町より出し練物を出し ○九月深川清殘座止  
 ○大川橋始り掛る 俗ふ吾妻 橋といふ 十月十七日渡り始り ○十月廿二日儒師鶴益一卒 左勝  
 伊豆子長應 もみ舞 ○画人鳥山石蕨豊房香山彦といふ繪本二卷を以てキボカ  
 シの彩色摺を二丈せし以本を始とす由安房貞翁の語 石蕨の周信の門人あり板刻の画本也



○又此時代橋の珉江といふ繪師ありて、繪師ありて、摺込の粉色を工  
又職人部敷といふ繪本を何とて、其外俳諧の点式など製して、  
いづれを廢れしう。○投扇の戲行は、是を弄ぶ。

安永四年乙未 十一月間

三月十七日より回向院より京清水山養院景清守本尊 千手觀世音毘沙門天  
勝軍地藏尊開帳 ○月廿九日、淡谷長谷寺より京高羽山清水寺  
魯院千手觀世音毘沙門天地藏尊 開帳 ○大井來福寺櫻樹を栽種す

○四月朔日より神田上水源大盛寺井頭弁才天開帳 ○津久戸明林  
八幡宮開帳 ○四月芝切通一時の禱再興 ○龜戸聖廟小樓門

建屋上小 ○大川中洲築立地一家居連續町名を三股富永町と号  
川辺小葺篋圓の茶店をけり、五月納涼殊々繁々、弦子畫

夜小喧よこがら

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休説、湧金門行樂此、中難具論、烟暖、四時花、世界月、清萬頃、  
水、乾坤垂楊岸、岸樓臺出、遊舫、人人歌笑喧、輸却、枕列、綠底事、恨、  
無、蕪白、關詞源、

中津納涼同伊藤士善

日落、江天關暑、秋趁、涼、輕艇向、中洲、燈棚夾、岸、花相映、端、竦臥、波、  
橋欲、浮、鳳管、數聲、風、扇、扇、星河、一帶、水悠悠、銀罌、倒、盡、人難、醉、白、  
紵、携、歸、滿、袂、秋、

中津漫興

十里、清湖、鏡裡、天、繁華、惱、客、動、留、連、鶯、鶯、沙、外、芙蓉、雨、楊柳、橋頭、  
翡翠、烟、愁、見、黃金、半、買、笑、誰、知、白髮、暗、催、年、笙歌、眼底、鎮、長、滿、自、  
是、來、舟、非、去、船、

○四月より目黒明王院より鎌倉本寺觀世音同岩殿寺觀世音同  
宝戒寺觀世音總念女止番の内一番地藏并開帳 ○七月より回向院より  
伊豆三島長岡富士山本地阿彌陀如來開帳 ○七月より回向院より  
相模根塔峯阿彌陀寺深誓上人本地法團光明佛開帳



○七月より市谷柳町之徳院親立之閑帳 ○八月十三日より晦日まで  
 深川八幡宮閑帳 ○月廿二日より護國寺山月より後又二十日昔親世音  
 不務閑帳 ○八月茅場町某沙境内にてわが菟野法界より朝日如来閑帳 ○九月  
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮閑帳 ○月日より世日と飯田町世徳稲  
 荷天満宮閑帳 ○九月十九日牛込赤城明神閑帳 ○投壺の技行 来々  
 とも  
研尋し之法を傳ふ投壺指揮投壺文勢圖解お梓行せり ○紀伊小倉文九米門 山が実子  
 山が  
 文右造の築地飯田町又住し終る者よりるが能遊を好む龜山と号し後其薩  
 餐し之明西といふ今年六十歳才ふくはる 能文が子孫  
 是も絶す ○十二月廿二日儒師  
 松崎親海卒 名維時松才孫  
 麻布系をふ小葉 ○薩那より来りし齋猪 ヤマ  
 アラシといふ 数津田村  
 屋町田村元雄の家より立りて後減草と境内にて見世物と成程の大サを脊  
 小老に骨教百本とり怒る時ハ此骨逆立ちと怒りしき等とあり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一舟卒 名宗章号玉水孫行孫  
 早分約遊大田ふ小葉 ○正月廿八日より柳島法  
 性寺妙見宮閑帳 ○二月風邪流行 ○三月末より秋の始を麻彦流行  
 人多く死す ○三月廿二日物産家田村元雄卒 名元臺法者  
 其終ふ小葉 ○四月廿八日詩  
 人大内熊耳卒 八十六名承裕孫忠孝又下谷廣植ちふ  
 葉以男と葉家といふ ○五月六日より八月八日迄回  
 向院より伊勢白子親考より子安親世吉閑帳 ○九月朔日より矢口新  
 田の祓本地十一面親世吉閑帳 ○月日より水代とあて六々羽田兼才天  
 閑帳 ○七月朔日より永代と飛来八幡宮閑帳 ○七月廿九日菟生通海卒 七十代大  
 早金谷  
祖孫の  
 男あり ○八月九日儒師宇佐美瀧水卒 名惠字子迪孫志助四谷  
 南と下戒りち小葉 ○柳橋若井  
名を梅松とくといふさし梅の編語ありといふも  
 ちししち小葉にて街政ふくといふとあり  
 ○品川の辺に石地藏燈を讀む声聞ゆると之皆人虫小なりが地蔵尊の



為覆<sup>あふ</sup>と放<sup>はな</sup>しつる小後の方<sup>かた</sup>に蜂<sup>はち</sup>の巢<sup>す</sup>ありて多くの蜂<sup>はち</sup>の声<sup>こゑ</sup>續<sup>つ</sup>極<sup>く</sup>の極<sup>く</sup>に  
之<sup>これ</sup>より出<sup>い</sup>る ○九月十三日東叡山瑠璃殿并法堂并修<sup>しゆ</sup>復<sup>ふく</sup>新<sup>しん</sup>始<sup>じ</sup>

○十月廿七日書家伊波益道<sup>えきどう</sup>卒<sup>す</sup> 名子初孫若花 坂本書院小葬儀 ○十二月十日夜二更<sup>ふたご</sup>のころ

新座<sup>しんざ</sup>那<sup>な</sup>東<sup>とう</sup>明<sup>めい</sup>と吹<sup>ふ</sup>上<sup>じやう</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>者<sup>しや</sup>本<sup>ほん</sup>堂<sup>どう</sup>焼<sup>や</sup>亡<sup>つ</sup> 本寺大中小埋れ されとも恙なき ○十二月廿三日儒師

伊<sup>い</sup>東<sup>とう</sup>渤<sup>はく</sup>海<sup>かい</sup>卒<sup>す</sup> 名晃 淡史 万庵古小葬儀

安永六年丁酉

二月廿一日曉青山所<sup>しよ</sup>より大工町焼<sup>や</sup> ○淡草報恩寺親書上人持物の什宝を  
洋<sup>やう</sup>せむ ○三月廿日より六月朔日まで淡草寺親世者并境内林仏熱開  
燒<sup>や</sup>あり開<sup>ひら</sup>基<sup>き</sup>より千百年<sup>せんねん</sup>ふ及<sup>およ</sup>ふと云 能人寺町百菴の菩提ふり淡草妙善院の  
境内ふ山岳の阿先生位よりと務ひ焼石  
開燒ありと拜儀ありと  
中谷と云今中田といふ

石枕<sup>いしまくら</sup>あり思<sup>おも</sup>ひのうねみも今ある田の里と云す 百菴

世<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>た<sup>た</sup>成<sup>じやう</sup>成<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>を<sup>を</sup>何<sup>なに</sup>ともい<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>り<sup>り</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>里<sup>り</sup> 明<sup>めい</sup>河<sup>か</sup>

○三月廿日音より湯宮乙由宮本社建立成就<sup>じゆじゆ</sup>に付<sup>つ</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○三月目白新長

谷<sup>や</sup>と境内親世者開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○淡草唯念寺林念寺湯池澄泉寺と七日

下野高田天<sup>てん</sup>辨<sup>べん</sup>一<sup>いつ</sup>光<sup>こう</sup>之<sup>の</sup>佛<sup>ぶつ</sup>誓<sup>せい</sup>燒<sup>や</sup> ○四月朔日より日向院岡山護念仏傳中

千<sup>せん</sup>辨<sup>べん</sup>佛<sup>ぶつ</sup> 他 阿<sup>あ</sup>彌<sup>み</sup>陀<sup>た</sup>如<sup>にょ</sup>來<sup>らい</sup>境内菜<sup>さい</sup>菴<sup>あう</sup>亦<sup>また</sup>天<sup>てん</sup>一<sup>いつ</sup>言<sup>ごん</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>者<sup>しや</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○同日より青山

善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>寺<sup>じ</sup>一<sup>いつ</sup>光<sup>こう</sup>三<sup>さん</sup>尊<sup>そん</sup>院<sup>いん</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○淡谷長谷寺二丈六尺親世者後<sup>ご</sup>務<sup>む</sup>の<sup>の</sup>像<sup>ざう</sup>を

外<sup>がい</sup>吉<sup>きち</sup>佛<sup>ぶつ</sup>靈<sup>りやう</sup>室<sup>しつ</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○四月より下谷寺町蓮城寺祖<sup>そ</sup>師<sup>し</sup> 日親上人 他 ○搦<sup>な</sup>場<sup>ばう</sup>

不動院不動尊<sup>ぶどうぞん</sup> 良兼 他 開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○四月八日より龜戸社内花園明神開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○中野法

仙<sup>せん</sup>と不動尊<sup>ぶどうぞん</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○芝<sup>しば</sup>金<sup>かね</sup>炊<sup>ひ</sup>正<sup>せい</sup>傳<sup>でん</sup>とあり牛<sup>うし</sup>込<sup>こ</sup>寺<sup>じ</sup>町久<sup>く</sup>成<sup>じやう</sup>と和<sup>わ</sup>寺<sup>じ</sup>祖<sup>そ</sup>師<sup>し</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup>

○下谷五条天神天満宮開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○龜<sup>か</sup>岩<sup>いわ</sup>山<sup>さん</sup>田<sup>でん</sup>福<sup>ふく</sup>とあり出<sup>い</sup>羽<sup>う</sup>湯<sup>とう</sup>殿<sup>でん</sup>山<sup>さん</sup>黄<sup>わう</sup>金<sup>こん</sup>堂<sup>どう</sup>去<sup>き</sup>良<sup>りやう</sup>

坊<sup>ぼく</sup>久<sup>く</sup>間<sup>ま</sup>町<sup>ちやう</sup>より大<sup>だい</sup>日<sup>にち</sup>如<sup>にょ</sup>來<sup>らい</sup>開<sup>ひら</sup>燒<sup>や</sup> ○龜<sup>か</sup>町<sup>ちやう</sup>平<sup>へい</sup>河<sup>か</sup>天<sup>てん</sup>林<sup>りん</sup>内<sup>ない</sup>とあり小<sup>せう</sup>浮<sup>う</sup>淡<sup>たん</sup>島<sup>しま</sup>町<sup>ちやう</sup>林<sup>りん</sup>虛<sup>こ</sup>空<sup>くう</sup>堂<sup>どう</sup>



弁兵帖 ○六月より本丸山島若寺祖師開帳 ○六月十日儒師指垣長章卒 号白

林原右衛門白山 ○夏より伊豆大島焼始り南海へ火燃ゆる赤川沖を夜く大光天く 炎

映するをる ○八月十五日日向院より及粟津義仲と本若義仲が守本

寺於日修院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家より山小湊卒 名尚賢孫平助 湊茶坊孫孫孫

○此秋魚鱒市へわが小田原の海中へ大魚来るを文正十層横八九層脊中へ坊

の類分を名をせしウカサノといひりある大形をも覆へりといふを以漁人

名れく海へ出るをり ○十月日本不動寺内をて武島多摩郡谷保又

津開帳 別當 安樂寺 ○十月甲辰身延山七面宮より出火赤清の者怪家人をく

江戸よりも移るを運ぶ出る者多く九死一生の祥をて為府せしむりといふ

安永七年戊戌 七月間

二月朔日より後雪本法よりく依渡玉塚系根本寺祖師開帳 ○二月十二日

俄又大風起り本石町より出火靈巖島深川追進焼 ○小借る町より代田

稻倉若麻靈室救多出を拜せしむ ○浅野家の義士垣初安と清分後

家 縁祖とのひー計りて嫁せざる内 更切後を十六才の時あり 薙髪して妙海と号し 飛戸村の庵室より

より一老後泉岳寺の門前住して義士の善徳と号し吊ひ居りし今

年二月廿九日小く終れり ○三月三日儒師南官太湊卒 名岳 林道六

牛島弘福 寺小華八 ○三月廿五日より横町平川天満宮開帳 ○鳥森稻倉明林喜日

明林 別當 映光院 開帳 ○三月上野清水堂親世より本堂造立あり開帳

○三田美日明林開帳 ○お撲身初の日叔昔八時天八日成り今年三月廿八

日より深川八幡宮境内においり身初ありより十日と成り由我衣よ

りてより ○四月朔日より牛込田福より系本満寺祖師開帳

○四月より後園寺より甲辰大聖院不動尊 新羅三弁像 武田信玄像 開帳



○六月朔日、河越前八幡宮にて發見富士裾野等我八幡宮者我兄弟の  
像荒人神 玉波明神虎はあ 開帳○同日より河越前中央より大日如來開帳

○同日より同七月十七日追回白院より信明善光寺鉢院如來開帳此時開帳

一之法師等々あり、曉七時以分牌の先小挑灯多くとりつれてる声念佛を唱へる声指ひの多  
く平賀橋渡鳥亭焉るが求よりて工事をせり、かき馬牛の脊小の字の名号をせり、ちり足  
せり、あきりて利をゆり、といふ又、鯉江津二年古沢平といひの細工よく飛ぶと、美室と  
号し、河をぬかせるに立て松井ふとの形又、佛り、うり、せり、鬼窟といひ、る、る、る、あといひ、つ、ま、お  
不鳥多、 ○六月朔日より河越前南於大佛勅進所出世大惠天開帳

○六月十六日俳人小栗百万平西本形中 ○六月廿二日より多田某師内より

武蔵十条村善光寺正親世善光智法印像開扉 ○高橋如來より

常陸國鹿島郡子生社宮より赤又天開帳 ○七月朔日より芝巻岩

社地より千住勝専寺誓大明神開帳 ○牛込七軒所多門院二身毘沙

門天開帳 ○三田寺町意服より系引正親世善中乃姫蓮より 開帳

○七月朔日より湯島社地より武州埼玉郡野島地蔵寺開帳澤山より

○七月四日書家山本榮海名智光林也 ○七月八日小割下水花巖日

外某河如來開帳 ○七月十六日より浅草清水より千手觀世音寺堂建立成

新あり開扉 ○七月浅草寺中壽命院妙見宮中堂建立入佛あり開扉

○七月廿八日より浅草寺中智光院より信助善光寺越村性生寺つら

感得鉢院如來聖徳太子 荊萱新親子地蔵寺開帳 ○下落合村茶王

院釈迦如來開帳 ○八月廿五日龜戸天満宮祭禮社樂新列古例の如く又

産子町より練物不出て旅ひ大方あり中地

○七月廿八日儒師鹿島探春卒名寺房号東郊敏

安永八年己亥

正月十四日夜青山慈野権現別當淨性院自火 ○二月板津権現境内



あまのつねに新法寺地親世吉開帳 ○川崎年間寺厄除弘法大師奉  
堂修復成就不月開帳 ○

上土山聖天宮西の藤小舟の池あり池中は石投げ等  
と号し之は是未の老嫗の立像あり兒童石を投じ候  
お投過入といひ侍りたり一年火災不罹り池も埋し石像由土中不埋れ四十年未初る人々一  
今年の夏下総五八日市田の百姓平山忠丸忠丸といひ自の江戸不來り以祈を借りて酒樓  
之營池を改め三茶不橋を築して三橋亭と号し又藤の女小機を織らして客  
ふるむけりといふ所の石像を池に投じて得く首をくくりしを山と小移して今在  
り大集衣婆の像あり

○四月朔日二日大不寒一日大雷降 ○四月八日より

浅草本坊より新曾妙顯も祖師釈迦如來開帳 ○月日より回向院

より伊勢朝熊岳金剛院も虚空菩薩菩薩開帳 ○押上最教寺蒙  
古退治熊曼茶羅を拜せむ ○下谷徳大寺摩利支天開帳

○四月八日より浅草極寺 西尾 徳山觀智因師 開帳  
徳撰奉る

○四月より七月迄百日のちわ明江の橋本宮岩屋毎々天開帳江戶系諸寺

○同是不動寺内之信及水内郡石堂村萱堂寂照房作地持井 別考 開帳  
西尾

○北岩山内之浅乃山虚空菩薩并年中後鬼林堂地持井開帳 別考 延命寺

○五月十六日より廿九日迄江船菰前勸進不之南於東京二月堂親世吉并開帳

○六月八日より茅場町葉師内之武洲下新屋村東明寺吹上親世吉開帳

○湯島七社社地も之多摩郡谷古田領新里徳性寺葉師如來不動寺并  
帳 ○八月より深川八幡宮奉地愛深明王開帳 ○小石川二尊量院不小野

の小町の墓と之五和州より移しより由今年小町の九百を忌み過り八月八日小

法了修好 小町の御名三月  
某の日ありとり ○八月廿五日大風雨洪水和泉橋落日向下水

道楫極の落せり程 小日向水丁辺  
住来水是程也 ○薩那彦品川の前郎 琉球寺の  
住持

筆を以て極する者人これを珍賞す 世不並ふ  
筆と稱し ○九月二日能人梅都菴五連平

七十云々小石川  
一多云々 ○九月より十二月迄小細町より甚左衛門町へ落りてこれ橋也

壊ちて之の地を埋るる ○九月十五日牛所前多礼社を落りて子

壊ちて之の地を埋るる ○九月十五日牛所前多礼社を落りて子







○四月房州南浦異國船漂着南系船長廿八才七十八人等といふ

○五月高田室家より石を獲て富士山を祭今月成終す ○或書より月

園運星おると云 ○五月十日日書家篠田定考卒 号明浦 丸山卒 ○六月三日大雨

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟之松光深院 華以生移吳林と号す ○六月大雨降續

廿六日より江戸近在利根川荒川戸田川潜水村人家を流し永代橋新大

橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴し ○七月朔日より日向

院より丹後天橋立成ねも聖親世より對王丸代地産等因縁 ○九月十

五日儒師林東溟卒 名義卿 牛島 弘福と号す ○十月十五日山岡阿若系於小卒 名俊明 林左渡

右條つ今年六十九才と卒去り ○武藏志料字本成 明形君の著輯 於今年正月

辭世百のあつた由何のうつくさ思ふのあつた由を ○武藏志料字本成 於今年正月

此年間に紀事

堀の内妙法寺祖師追日系指人群集以 ○安永始の以王子駒込谷中辺西玉

写經世吉札不巡りせ定む ○江戸小二十五番所田光大師巡拜祈せ定む 愚編 榮華

記小 ○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の正時代のも有り物商物

目錄左小畧記は菓子屋 下谷慶小路令以本町鈴木裁後 月名同本町中や 版田町とくや 泉町とくや 版田町壺屋 △大佛

餅 浅草並木 下谷車坂 △輕燒 松原町 若原町 △蕎麥切 多乃正並約形山並秋若系約瓶 浅草乃好庵堺町福山牛島並會々 雜司谷菰の内

△船切 麹町 浅草大坂や 芝日妻日野 浅川八幡宮二軒茶屋 △揚枝茶釜 五倍子酒中花 浅草境内 柳屋屋外 △料理茶屋 浅川市 日

△生養鯉 須崎 大倉孫地并 浅草乃好庵堺町福山牛島並會々 雜司谷菰の内 △田樂 芝居の 甲子並 △膳 伊豆子

△所新おに 玉座 舟中 △蕎麥切豆腐 木枕 △あけ雪あふ茶 回向の人等 車坂下飛や

△黄飯 浅草乃好庵堺町福山牛島並會々 雜司谷菰の内 △浅草飯 境内 △いくよ餅 此外何中く有り

末く花雪の名不約の名所をも記せり ○相模取谷風棍之助小野川喜



三邦親近嶽雲古歩の歩行 安永の以て三津川永代 ○狂哥師 平枝東也

蜀山人手柄岡持唐衣搦洲 ○軍談師馬谷 藤一祐石井魯石行

○浮世繪柄巻居清長 彩を柄巻本集信の以より以舟小巧小成 古九堂英遊

志川美町 余福 嘉平 哥川豊春 一庵 ありる ○能人如露菴を醉四時遊觀録

といふ面搦せありて以て戸花曆是小遊り ○浅草寺境内石枕花号

因果尤甚 流形之後奥山三途川燒像初秋の若多 ○共先稻花境内茶

店の婆々油搦を拵るいひくと喰ふ時靴出て食ふ皆人号を見り ○婦女の

髪さし始る ○名入温石始る ○裸人形腰折れといふりの造り始む

○小石川借通院云ふことあり如く門前の表町南小辰已盛勢を清とのり田楽某版の

店と出ると何とこの勢を清生質強記をせに弱きを助者願ふ快事のりありる若年よ

里神楽中うのま仙せとて化頭とを山王神田のりこの勢礼も出て踊る或は女のりかどと

あり小系女とあり巫女のまねをありてとや或は若度藩中の遊者のまね小徳てられりまこと金瓶ハ

ありれといふは文化の半の以神田参礼の時半竹才あり出るとふをりて踊りてとありれ由者

より早以七十余ありて終り 南畝先生文化元甲子秋長崎一趣りれ時高船の清人程赤城にお

再按る  
小抄云  
文政四  
年十月  
終れり  
小石川  
蒸照院  
小華院

つむぐわの在己屋の爲と此を二つ小割さ如く面白録似りといふれとどを在己屋が

禹像小南畝先生の賛あり おまわりと神樂の半は在己屋がわかれ本娘の花ささせ前

○安永中島山檢校遊里小趣遊女漱川と身交り巨万の金銀を費せり

此檢校諸人小金銀を貸してその利を金具の  
ける由を二つ小撰料小ませられとや ○山王神田参礼の時花万度せりさ出る

安永中越後の産をて女世といふ  
夫女の力持りて二つせ給あり

天明元年辛丑 四月十三日改元 五月閏

正月八日新枝木町和國餅の店より出火あり芝居その外に焼雲巖橋小

いりる ○二月朔日より浅草妙善寺より鎌倉名越谷長橋寺祖師再修

○二月朔日浅草瑞瑞語元祖常磐津文字太夫死 廣尾 ○二月十五日

より回向院より中巻小金 善化宗 奉り 一月寺親近如來不動尊の開帳 尺八笛三奏 あり 喜国

ある林 ○三月十日より十三日と多田中より肉まて 信州善光寺回向如來淨宗文内

少くは 日十日より十八日と沼田遊会ありて 拜 ○三月十八日浅草三社権現祭礼ありて今年神樂宗新産子の



町（出）縁物（出）七（中）○四月八日より圓向院（山）嶺（二）院跡（跡）

系先丈師（開帳）○儀多本（法）寺（下）總國（卒）寺（寺）祖師（開帳）○茅場町

茶師（内）寺（和）及（丈）峰（天）の（河）糸（才）天（開帳）○古川（茶）師（如）末（開帳）

○敷（橋）宗（係）寺（小）甲（斐）國（郡）内（小）明（之）村（西）方（寺）十一（面）觀（世）寺（開帳）

○目白（不）動（多）境（内）於（武）務（社）住（吉）和（寺）三（林）開（帳）

○六月五日儀多（寺）六（天）系（礼）神（樂）寺（縁）物（出）○六月十四日儒師（井）上（榮）

條（卒）○六月十八日四（谷）天（五）稻（荷）系（礼）神（樂）寺（縁）物（出）

出（る）○秋（実）系（系）水（江）橋（橋）損（次）○七月初日より圓向院（寺）奥（明）外（濱）百（津）

寺（岩）中（山）三（社）本（地）保（院）如（末）觀（世）寺（并）茶（師）如（末）開（帳）○同日より儀多（寺）

泉（寺）寺（武）及（八）王子（本）寺（寺）祖（師）茶（帳）○四（谷）寺（南）寺（町）生（成）院（儀）臨（踏）觀

世（寺）開（帳）○東（叡）山（護）國（院）常（念）佛（堂）五（万）日（回）向（向）○下（谷）極（大）寺（中）

山（法）花（經）寺（祖）師（開）帳（帳）○七月初日方湯（高）社（地）寺（小）野（社）内（安）並（丈）

満（宮）開（帳）○八月より儀多（寺）荒（沃）不（動）寺（開）帳（帳）○九月晦日子（刻）吉（系）伏

見（町）○一（本）目（と）五（丁）より山（火）一（町）の（除）焼（寺）世（交）八（修）宅（寺）○十月十三日日蓮

上人（五）百年（忌）法（花）宗（寺）院（法）庭（を）設（く）○十月十日日蓮（長）泉（院）開

基（基）徳（門）律（師）寂（寂）○十月廿日より十一月廿日儀多（寺）觀（世）音

開（帳）○隅（田）川（西）岸（一）覽（二）卷（板）行（成）

下（谷）金（夜）小（位）長（書）を（保）持（ち）○あ（ら）は（ら）は（ら）儀（多）寺（縁）物（出）中（送）米（倉）寺（茶）寺（茶）始（り）分（於）下（に）

天明二年壬寅

三月十日より永代（寺）寺（寺）八（幡）宮（本）地（寺）寺（寺）深（明）五（教）初（公）教（告）觀（世）音

開（帳）○三月七日二（井）親（和）和（卒）

○三月十日より儀多（寺）念（佛）堂（小）及（儀）濃（谷）汲（華）嚴（寺）十一（面）觀（世）音







東三井寺地蔵并開帳○三月より浅草寺法寺あり後河岩寺実わす  
 祖師并帳○三月廿三日南品川大火○月廿五日靈巖島火事○四月  
 八日深川辺大火○月十日浅草寺心寺出火○四月朔日より湯島田代  
 寺十二面親世寺五丈寺開帳○月日より浅草寺町柳橋本寺十二面親  
 世寺開帳○同日より浅草寺日輪寺あり奥州會津西光寺日限地蔵寺  
 開帳○月日より下谷五條天林天満宮開帳○四月八日分芝愛宕燈現  
 境内より下谷坐米倉山寺妙寺十二面親世寺開帳○六月十五日より  
 湯島社内より小日向若若谷明照寺地蔵寺聖徳寺不動寺開  
 帳○五月より霖雨晴るハ稀○六月十六日より大雨降續十七日別て  
 大雨より浅草小石川辺出水大川橋柳橋墮る小日向大洗堰石垣崩  
 是神田上水切る○信濃浅草山火坑火小焼江戸あり七月六日夕七ツ

申時より初水の方鳴動一翌七日程忘一天闇く夜の如く六日の  
 夜より関東筋気灰を降るハ稀ハ木枝積雪の如く八日ふり  
 里快晴と成る

浅草山焼出せり其の以より始り常小積りたり六月廿九日の以より  
 望月宿の辺よりなる小畑立雲の如く雲一面小霞ひ雲の稲光の極ありて思  
 七月四日以下より毎日雷の如く山鳴り次第小強く六日夕方より青色の  
 灰降中より翌七日の朝より雨降出一時時闇敷の如く人報も見え分  
 らぬ内より雨降出一時時闇敷の如く人報も見え分らぬ内より雨降出  
 用ひあれぬ米俵をくつもささぐりて往來せり積るハ二時計りて空  
 又降るのうら小雲之火の玉花より暫らく降りて小石降り鳴き強  
 く降る子んは是夜降るありハ八日  
 於此の時雷強く降り安中二三日雨一降る空一向ひく浅草寺放ち太鼓  
 を打て雷降るありハ八日  
 寫景辺月形吉井辺あり一降の雨量ありハ二石あり降るを以て小  
 積りて三尺計り轉井沢菅橋邊分松島邊の辺三二寸計りの石降り人  
 家を潰す積りて三尺計り  
 家と捨て置き遠くのれて命を全せりも有り小田井大釜の辺ハ積  
 ると出で人々をさすり  
 穉師致せりて遊遊く七日夕我妻辺の山より大蛇も出たり又九日  
 己の時利根川の土吾妻川雨  
 たり子水少くあがり暫時泥あ山の如く押入人家崩れなり中洲八丁  
 河岸の辺ハ樹木家  
 崩れるの死骸流しある等懸く中洲の川に焼石お水熱湯の如く上  
 洲一團の底由二三日昼  
 夜途方より信より上野懸谷辺遠を遠あれとも五五年の形物あり  
 けり難ありて



死する所の九方五子餘令との小田井宿の障子一西風強くして遊本宿一火屋一多と  
り昔天治元年七月あゆみのかきつりあり一由中右記あるをり又元禄十六年十二月あ  
れ山焼くれども以年の如くあつたりありありわ  
江戸もて由疏美の香河川中川より舟往一通一保豆の海辺を志く濁る依て芝浦築  
地築地側の辺あり今も津浪起るとて大に騒動一佃島の男女まを誘ら以雑具を運以  
く隣地小居るる九二日あり

○此頃綿麻價貴一夏より秋迄綿白冷きふく帷子と見る日少一

大に拾衣綿入多也  
○七月十日より芝野岩地内少く本所五目自性院延命地蔵尊

大師也 栄徳 ○七月晦日吉草八代了泉卒 四午 ○葛為才田福為社修復効化

漸免して江戸中の和商一施財を募る ○関東奥川筋肌腫 ○八月十五日亥の

刻月蝕 日分半 良夜の夜もこれよ ○九月十日書家小阿保壽卒 七年方号中意之精業

○九月十五日神田明神祭礼の時神主形ふより神雲を十番と十一番の男

一後をり高年々始る 是迄二十六年の志(後)より運轉深夜小 ○同日より竜戸妙

義山権現居扉 ○十月廿八日曉八時小借る町を午よりお火大風ありて

大借る町通旅籠町田所町若石川町堀江町小細町を午自邊湯町葺後

町迄本船町小田系町宝町後焼町屋外敷町焼亡日午刻迄る

○十月書家松山天姥卒 名教和松源系 ○十二月廿日己の刻迄濃草を越より

出火本町接細一飛以豊川通所船後通る津川六男堀本松等靈巖寺

津川六男堀の堀迄焼る ○十二月廿二日普六津崎の上守方出焼失

○秋の角力冬小延て寒中お身仍るより今年より始る

天明四年甲辰 正月間

正月二日夜青山麻布辺大火四谷新宿焼亡 ○舊冬廿七日より二月

三日のより 慧星坤の方小取る ○閏正月廿三日曉八半時神田被治町二丁目

より出火鵜町為横町白壁町堅久二町新石町二丁目堂師町焼亡

○二月初午鳥森福為系出練物出取 ○二月より四月廿日迄中の々

武江二年庚辰六

十一



如高福寺聖徳太子開帳 ○二月小川町三修福初神開帳 ○三月十五日  
 より五月五日迄日向院少く相州園中嚴密道了権規開帳 ○葛西花又  
 村正堂等勢大明神開帳 ○三月廿一日弘法大師九百五十年忌 ○川傍平男  
 子弘法大師開帳 ○獲ふる獲持院弘法大師遠忌并什物開帳  
 ○永代より山城宇治平野院縣社本祀如高福初世開帳 ○牛込系福子  
 少く中山法花徑より奉堂祖師 日法上人 開帳 ○淡石系法少く佐渡難太  
 郡小濱村妙宣寺祖師開帳 ○宿戸天満宮開帳 ○四月より子孫谷鬼子  
 母神開帳 仙壽院 四月より深川靈雲院少く系泉涌寺親近如來肉付  
 佛舍利開帳 ○四月十日茶人清水玄昌 下谷音泉寺 四月十六日且下刻  
 若原水道流より出火鄭中焼亡 飯宅向ふ山日向院少く法堂  
 並木約形等形町あり ○四月廿二日高  
 芙蓉亭 宇二系刻の上よりあり ○諸國飢饉時疫仍れ人多死也  
 戸崎町安堂院系并あり

○五月二日萩系宗固卒 八十二才名貞辰百花園と号し法光院の師士あり鳥丸光榮公の如  
 門人少く和奇少く其時年ありは谷荒木横町ありて卒せり  
 上金我卒 卒三才名院の神交年  
 五十七才稱高茂 ○八月十六日國學若荷田沖風卒 五十七才稱高茂  
 成至全經より卒也  
 ○九月十五日より十月十日日迄十位慈願少く野島清少古地義等開帳  
 ○九月十八日後藤氏十三代延家卒 卒十  
 乙冠竹本大の衣裳少く  
 此數一様を以て并ふ ○十月より五年の曾仙慈少く  
 らる ○十月桐長桐芝居櫓を改し肘馬櫓と云程言せり  
 是昔の十の  
 送風よりとりふ  
 星の  
 名を  
 ○十一月東本願寺本堂再建棟上 ○十二月六日夜太白星歳  
 星を祀る ○四月十日五車 星の 名を 祀る ○十二月廿六日夜戌下刻八代河川  
 舟より出火為小風烈しく大名小路新櫓敷奇座櫓弓町御座下辺八官町  
 の辺尾張町より本横町芝居仙臺廣小藩邸の辺北の系櫓辺迄鉄炮側築  
 地海系為奉起り南小田系町辺迄鉄燧燧廿七日申刻深助町辺より火起り



大小名藩邸町屋あつる追夥し焼亡し○十二月廿九日儒師并子菜卒

号信欣 ○十二月廿八日夜赤坂氷川町より出火麻布長坂辺まで焼亡

天明五年乙巳

二月十日より回向院にて總舎移居名石勅普閑情○同日より回向院にて五洲

八丈島為朝明神本地地荒井閑情○三月より洲崎舟才久重情○八月より

江之島下の宮舟才久重情江之島より舟崎舟才久重情○二月十日福王重情卒

寺祖師重情○二月廿二日儒師清田若錦卒

○二月十日福王重情卒

○二月十日福王重情卒

○二月十日福王重情卒

○二月十日福王重情卒

○六月十五日より湯島社地にて武井野島地籍

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

○七月十日儒師大鹽齋齋諸卒

同 六年丙午

十月日



正月元日丙午未午一刻より未一刻迄日蝕皆既闇夜の如し

○正月廿二日昼九時湯島天神裏門外牡丹長家より出火西北風烈し三組

町妻急社神田町神門外并風閣より旅籠町辺内外神田より通町筋本町通

日本橋東より小田原町堀江町小網町堺町葺屋町並芝居並近辺大焼る所

小焼る所も喰町濱町保川(飛火)徳井町相川町大島町辺八幡宮一を

居付丁辺焼亡翌廿三日曉落る聖堂神田町神田本社社計り焼る

○月廿三日風烈し午刻西久保大養場より出火赤羽版倉町並焼失

ち院の光明寺の光院其外焼亡後より飛火して田町海岸並焼る申中刻迄

幅三丁長十五町といふ○同廿四日夜神奈川宿三百軒の餘焼る○同廿七日

午刻本所四ッ目より出火釜屋並焼る○同夜平川洲門外出火あり

○二月二日荷田妻満の女蒼生卒卒才園學小長一和翁を○二月六日午刻正

小石川蓮華寺寺名指谷町二丁目より出火乾風強く丸山辺江町本元町

以茶水春日町新焼歎立所焼る○同院の上総五子田村秘念寺萬次

孫院如來園焼○谷中延命院七面町林長焼○二月廿三日相筋根山山名動

く廿四日の以地震甚しき日百度計震ひしと云○三月より薩國より親世言

開燒○三月十五日夜中雪降り梅の花も積る○三月廿二日降瑞瑞諸元祖

病歿若狭掾死七年才林信長孫刺殺して雀籠といふ○早春より四月の半迄

雨あく日烈風ありて老人火災の怖るも安きころなり

○五月の以より雨整く隔日の振ありしが七月十二日より別々大雨降續け

山水の少くは洪水と成り十三日十四日より牛込小日向町石切橋辺武家方登陸途人々

水勢を急ぐ橋の流る由お林田上水掛樋危く大勢の人を以て防がむ後樋樋の上を大槌水

ありしが十七日十八日以より少く減りて目白山崩上水樋樋の水は一月の餘程より目平橋筋

邊橋危く和泉橋の仮橋も流るより十五日より大川も位出ぬ小橋系の水も大川も位出ぬ

也掃船宿軒並水あり本所深川の家屋を流り平井交地並水一丈三尺と云大川橋も大槌水







官府より嚴しく制しおし町々あてり竹柵を據り一教を固厳重あり一六  
 暫時に結わり○五月賊民一正教とて金子を擄り六月米大豆下並を以て  
 賈しめらる○八月十三日曆学者小沢紫江卒 名政敏孫多門跡也 浩州と小葬以 ○八月廿日  
 書家伊藤長林卒 宗万年号匡山 淡草卒号小葬 ○八月廿二日谷中感・惣子比内小於  
 赤叡山所の鐘を鑄改む月廿八日嘗て時始と撞く○九月七日能治師  
 聖中庵蓼太卒 七十六大島氏名陽喬空曆居士 是後深川要津と小葬以 ○九月十二日井の水毒ありと  
 不妖言ひらるる○十月九日曉刻に古系南町より出火し一廊中焼く  
 冷焼亡花川戸近於燒以 板室大指例深川勢地八幡寺中御厨永町と稱あり 之れ等の名店のはなみとてのひとねは後宅留之  
 ○林田の林宗礼十一月あ延る再延引く十二月二日小波る登時と為り  
 天明八年戊申  
 正月元日大雪路○正月廣東人參賣買止ありしをゆるし  
 正月元日大雪路

○四月朔日より深川津心より身延山祖師開帳○月十五日より淺草  
 店 まて池上旅立祖師開帳 ○四月十一日夜戌刻光物飛入屋の如く

○五月八日儒師大江維翰卒 東師の大江資衡が子 芝天極寺小葬以 ○六月十二日二代目英一蜂卒  
西の江若光 小葬以 ○七月十六日書家植柳季深卒 名株 号然居士 淡草活求と小葬以 ○八月廿一日書  
 家関敬明卒 号本山 林勢菰 小日向林名と小葬以 ○十二月寺院二命しあひ淺間山燒奥州

飢饉度度關東出水系於大火燒死溺死おは禍小罹りしもの為小施縁鬼  
 と修せしめらる 江戸の幸新田向院小松川仲春院あり其於大火とりの今年正月晦日洛東 國東より出火し洛中洛外大肉と肉をとりこの大災のゆと委曲お 慈しむ花紅葉於佛と形を板本之巻あり 又大興禪師平安誓彼の記をゆりしる

此年間に記事

天明の頃名家△儒家金峩旭山 芝山 北海 雀鳴 瓶山 △詩人 西野 僧  
 六如 名慈周 △書家 其寧 東江 親和 改嶺 韓天壽 牛山 △和歌 千蔭



春海自寛 春海自寛 重昭 重昭 諸香 諸香 △画家 宋紫石 嵩谷 嵩溪 其恭

山鳥 山鳥 秋山 秋山 △俳諧 蓼太 完来 妍希 珠来 得器 金羅 貫河

言武 祇平 白雄 △狂哥 四方 赤良 蜀山人 朱樂 菅江 元の本河 跡 大極 裏住

宿極 飯盛 康津 於其 彰 抄極 金持 さら 綿鶴 △戲作者 通矢 森三

二意 川 夷町 狂奇異 芝全 交 万象 亭 二代目 風来 唐来 三和 右云 人を 戲 化 若

の六家 撰 といふ 以外 可矣 七珍 万宝 若の 唐九 觀水 堂 大阿 芝菜 樹下

石上 鬼外 △江戸 降福 瑞仙 若紀 の上 太郎 菊 若 亭 二代目 福内

相貫 四 容揚 徳 玉泉 堂 鬼服 在 治 馬 馬 其 外 多し △琴曲 山田 檢校

△八人 藝 川 島 哥 命 初りる 實子 小 哥 遊 あり ○天明 の 以 地 口 の 変 態 あり

猪 俣 といふ 言葉 有る ○天明 時代 の 中 あり 物 を 集 る 江戸 名 物 席 子 と

歌 せる 茶 紙 あり 食草の画又録りぬ 空 月 録 一 二 七 記 在 △味 香 齋 元 結 △中 々 鞠 室

△奇 比 丘 尼 鬘 髪 形 △油 町 紅 繪 △白 木 呂 眼 △中 町 益 田 目 末 呂 末 香 △飯 堂 塗 物 △清 水 亭 復 隆 △初 化 儀

△赤 坂 元 末 茶 亭 △芝 三 宿 依 △横 街 花 蔭 齋 △味 香 齋 所 著 雲 々 △淡 草 齋 市

△とん 坊 △吉 原 朝 日 の 心 △芝 三 茶 女 節 △日 東 帳 △弱 遊 富 士 園 苑 △魏 町 助 也 や ぎ △とん 坊

△餅 屋 吉 清 が 依 △赤 坂 瑞 △長 坂 元 結 △和 井 澤 六 郎 辰 台 △佃 島 菰 △吉 原 本 村 樂 △鞠 町 敷

△湯 島 常 人 祭 の あり △淡 草 齋 新 設 院 住 持 子 ○料理 茶 屋 乃 乃 乃 首 西 太 郎 平 安 朝 野

△あ ぶ の 歳 世 傳 中 所 あり △小 栗 八 平 安 朝 野

大 本 孫 孫 四 郎 日 本 社 業 社 武 元 孫 權 三 郎 日 本 社 業 社 甲 子 屋 四 季 菴 中 崎 二 郎 茶 屋 中 崎

永 春 子 日 本 社 業 社 井 屋 宗 助 日 本 社 業 社 山 内 百 川 日 本 社 業 社 山 内 百 川 日 本 社 業 社

○六 如 菴 詩 鈔 小 崎 崎 齋 齋 七 賦 一 言 あり 安 永 天 明 の 以 の 凡 多 じ 程 多 じ 烏 有 と あり ぬ といふ

洲 奇 茶 樓 寓 目 高 樓 瀕 海 氣 清 故 時 復 斜 陽 澄 眼 來 青 華 風 生 鶯 驟 雨 白 沙 潮 走 作 暗 雷

○武 元 力 々 マ 屋 芳 町 本 橋 町 湯 島 本 村 肉 麩 町 以 町 代 地 林 田 花 房 町 並 行 町 赤 谷 八 幡 宮 内

○今 口 といふ 茶 屋 女 下 谷 廣 小 坂 山 坂 町 門 提 灯 店 住 居 廣 隆 寺 寺 極 田 末 邊 寺 外 橋 町 あり じ







